

ごあいさつ

1200年の歴史の息づかい、山紫水明の自然、美しい町並みの中で市民の皆様がいきいきと暮らす京都。伝統産業から先端産業まで、優れた技と知恵が融合・集積する「ものづくりのまち」、京都誕生の地、環境モデル都市である「環境先進のまち」、国内外の人々を魅了する「国際観光のまち」など、京都には多様な、そしてそれぞれ世界に誇る、優れた特性があります。

今、人口減少・少子高齢化、進む地球温暖化など、私たちはさまざまな困難な課題に直面しています。しかし、京都ならではの都市特性を最大限に発揮し、ピンチをチャンスに知恵と力を結集すれば、必ず困難を乗り越えて未来を切り拓ける。私はそう確信しています。

この度、山科区の皆様の英知を結集し、山科区の個性を最大限に生かした魅力ある地域づくりを進めるための指針となる「第2期山科区基本計画」を策定しました。この「第2期山科区基本計画」は、今後10年間の京都の未来像と主要政策を明示した「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」とともに、市民の皆様と夢と希望、危機感と責任を共有して描いた「未来の京都」を実現するためのシナリオとなるものです。

策定に当たりましては、自治連合会や各種団体からなる合同会議や、学識経験者・区民の皆様による「山科区基本計画策定委員会」などで深い議論を重ねるなど、区民ぐるみで取り組んでいただきました。皆様に深く感謝申し上げます。

山科区の皆様の熱い思い、夢、希望がぎゅっと詰まったこのシナリオを手に、私は、皆様と共に汗する「共汗」と、徹底した市民目線による政策の「融合」を基本に、“地域主権時代のモデル”となる未来の京都のまちづくりを全力で進めて参ります。そして、50年後、100年後も「日本に京都があつてよかった」、「京都に住んでよかった」と実感していただける魅力あふれる京都を築いていく決意です。

さあ、皆様！希望に満ちた未来へと、山科区が、そして京都が、さらに高く、強く、美しくはばたくよう共に力をあわせて参りましょう。

山科区は、水と緑の豊かな自然と、脈々と受け継がれてきた歴史や伝統のまちであり、交通の要衝で、昔も今も、“京都の東の玄関口”としての役割を担っています。高度成長期の都市開発と人口の急増の時期等を経て今のまちの姿となりましたが、全国的に広がる少子高齢化や小世帯化は、山科区においてより顕著に現れています。

こうした現状を踏まえ、山科区では、この度、「心豊かな人と緑の“きすな”のまち 山科」を将来像とし、今後10年間のまちづくりのビジョンを示す「第2期山科区基本計画」を策定しました。

計画の策定に当たり、織田直文京都橘大学教授を座長とする「山科区基本計画策定委員会」で活発な議論を行っていただくとともに、パブリック・コメントや各種団体への出前パブコメを積極的に実施して多くの区民の皆様から幅広いご意見を頂戴し、それを反映した計画と致しました。まさに区民の皆様でつくり上げられた計画であり、計画策定にご尽力・ご協力いただいた皆様に、心から御礼を申し上げます。

この計画では、「まちづくりは人づくり」の考えに立ち、関係する分野の横断的な施策の「融合」と、区民・地域団体・企業・事業者・大学・行政等の関係者が一緒になって取り組む「共汗・協働」を基調としており、「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」と相互に補完し合いながら、将来像に掲げたまちづくりを推進していくこととじています。

計画は策定することが目的ではなく、その実現のためのこれからの取組が大切です。10年後の山科区の未来に向かって、今後、この計画を、区民の皆様と一緒に着実に推進し、だれもが住みたい、住み続けたい、訪れたいと思う、多世代を惹きつける魅力に満ちた山科区のまちづくりに、全力で取り組んで参ります。

皆様のご協力とご参加をお願い致します。



京都市長
門川 大作



山科区長
西出 義幸

目次	I はじめに	1	IV 基本施策ごとの取組	
	II 山科区の将来像	6	① 環境を守り継ぐ	12
	III 施策の体系	10	② まちの魅力・観光を磨く	17
			③ 交通・都市基盤を強化する	22
			④ 保健・福祉・子育て支援を充実させる	26
			⑤ 地域のつながりを強める	33
	V 計画の推進	38		
	参考：山科区基本計画策定委員名簿	40		

I はじめに

1 策定に当たって

山科区では、あらゆる方々とのパートナーシップによるまちづくりを進めていくため、「人づくり」、「融合」、「共汗・協働」をキーワードとする「第2期山科区基本計画」を策定しました。この計画では、区民に共感をもってもらえるように内容をわかりやすくするとともに、進ちょく管理についても記載しています。この計画に基づいて、今後、山科区が一層魅力あるまちになるようさまざまな施策に取り組んでいきます。

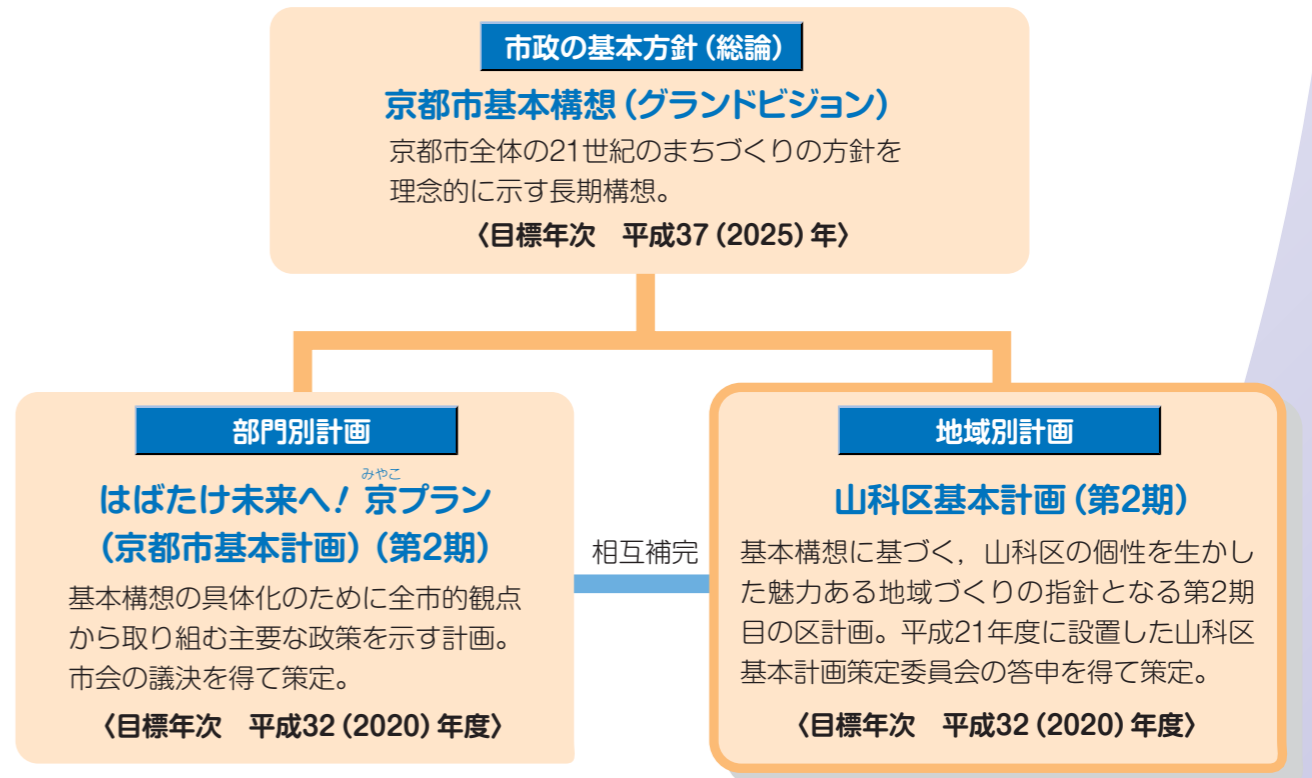
計画期間 10年間
 平成23(2011)年4月～
 平成33(2021)年3月末

※「第2期山科区基本計画」は、平成32(2020)年度を目標とした10年間の計画です。

■計画の位置付け

この計画は、平成13年1月に策定した「山科区フロンティア計画（山科区基本計画）」を受け継ぐ計画であり、区民・地域団体・企業・事業者・大学・行政等の関係者が一緒になって連携・協働し、より良い山科区づくりを進めていくためのものです。関係する分野の横断的な施策の「融合」とさまざまな行動主体の連携により、より一層効果的・効率的なまちづくりを進めます。

一方、この計画は、「世界文化自由都市宣言」の都市理念のもと、京都市全体の長期構想である「京都市基本構想（グランドビジョン；平成11年12月策定）」に基づく地域（行政区）別の計画であり、「京都市基本計画」と相互に補完し合いながら、「まちづくりは人づくり」を基本に推進を図っていくものです。



2 計画策定の経緯

山科区では、このまちを一層魅力あふれるまちとして発展させ、だれもがこの地に暮らすことを誇りに思えるよう、区民・地域団体・企業・事業者・大学・行政等のパートナーシップによるさまざまな取組を進めています。

平成13年度からの10年間のまちづくりをけん引してきた「山科区フロンティア計画（山科区基本計画）」については、各種団体を代表する方々と行政機関からなる「“やましな21”推進会議」を設置し、その点検を行いました。前計画に盛り込んだ取組については、ほぼすべての項目に着手し推進を図ってきたところであり、今後とも、必要な取組については、さらに継続的・発展的に進めていくべきことを総括としたところです。これを受けて、「第2期山科区基本計画」の策定に当たっては、前計画を踏襲したうえで、策定方針を以下のとおりとしました。

「第2期山科区基本計画」の策定方針

- 「山科区フロンティア計画（山科区基本計画）」を受け継ぐとともに、見直しを行い、再整理する。
- 区民にわかりやすく、共感が得られるような内容にするとともに、進ちょく管理がしやすいものとなるよう、体系を再構成する。
- 社会経済情勢の変化や京都市の財政状況等を踏まえ、まちづくりについて、行政主導で行うハード面の進展だけでなく、関係者が協働で行うソフト面の展開を図る。

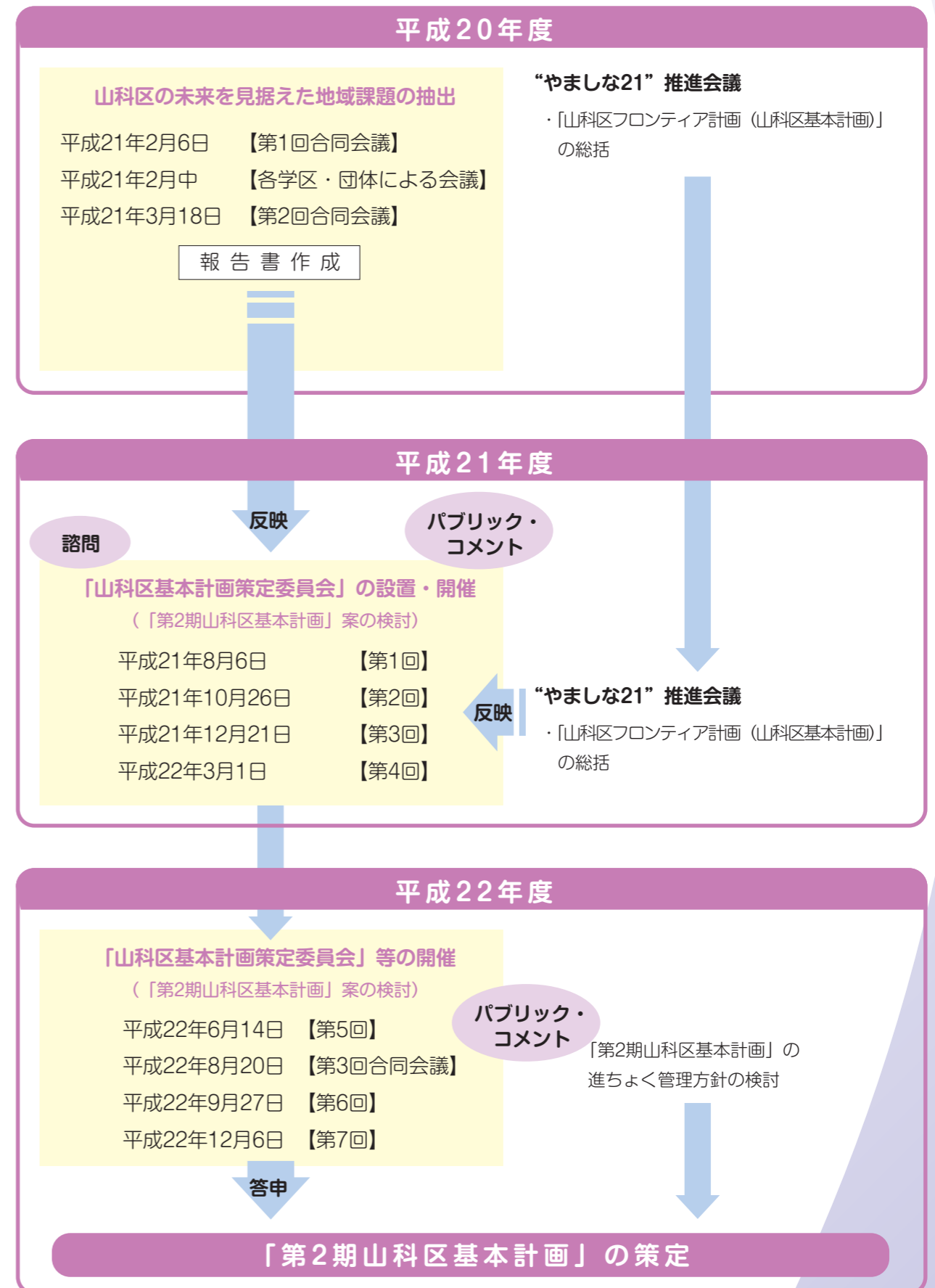
この方針のもと、平成20年度に13学区自治連合会と女性、高齢者、若者や福祉、文化・産業・観光を代表する団体からなる合同会議を開催して、区民各層から地域課題を抽出し、その結果等を踏まえた報告書をまとめました。その後、「第2期山科区基本計画」の策定に向けて、区民からの意見募集についても行ったところです。

平成21年度からは、各界代表者の委員や区民公募の委員からなる「山科区基本計画策定委員会」を設置し、平成22年度までに7回の委員会を開催しました。委員会では、前計画の総括、区民各層から出された地域課題、区民のご意見等を礎石として計画内容の検討・協議に取り組みました。

また、平成22年度には、計画素案を公表し2箇月間にわたってパブリック・コメント*を実施しました。その結果、139通、301件のご意見をいただくとともに、あわせて募集した山科区の将来像のキャッチフレーズについては、156件の応募をいただきました。さらに、「共汗・協働」の視点から、区内の各種団体及び区役所職員からの意見聴取*を行いました。（※意見聴取した団体は、31団体。うち、パブリック・コメント期間中に15団体から143件の意見を聴取しました。）

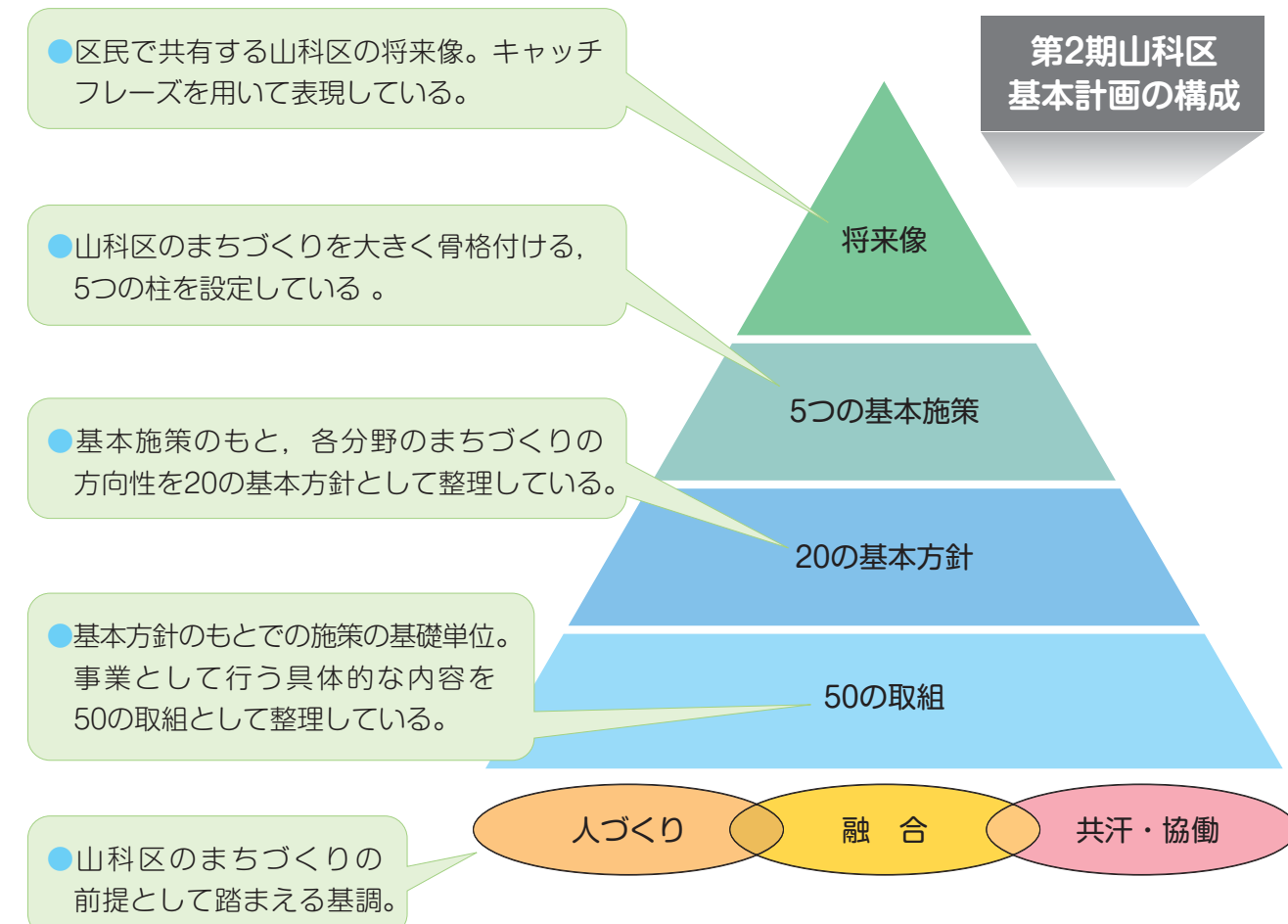
このように、2箇年度を通じて、区民の皆さんからいただいたご意見をできる限り反映させることに努め、“区民でつくり上げた計画”としてまとめています。

計画策定の流れ



*パブリック・コメント：計画の策定の段階等で広く市民意見を募集し、寄せられた意見内容を踏まえた意思決定を行う手続きのことです。

3 この計画の見方



計画の基調

人づくり

融合

共汗・協働

- 区民一人一人がまちづくりの主役であることから、この計画は、「まちづくりは人づくり」の考えに立っています。
- 分野ごとの取組を確実に進めるだけでなく、あらゆる分野間の取組の「融合」を図って、一層、効果的・効率的にまちづくりを行います。
- 山科区づくりにかかわるすべてのひとが、共に汗を流して取り組む内容を示した計画です。

「IV 基本施策ごとの取組」における各記載項目について

例 12頁

5つの基本施策ごとの達成目標等

- 基本施策ごとに、達成目標として「計画期末のひとやまちの状態像」を描くとともに、その達成度を把握するための指標を掲げています。
- 山科区の最新の現況値と目標値を示し、目標年度は平成32年度としています。

20の基本方針

- 基本施策のもと、各分野のまちづくりの方向性として基本方針を示し、その取組内容を掲げています。

区民と行政の共汗・協働プロジェクト

- 基本施策の取組のうち、区民と行政と一緒に汗を流して取り組む「共汗・協働」の視点からのアクションをわかりやすくイメージしたものです。

50の取組

- 基本方針のもと、具体的に取り組んでいく内容を示しています。

主な取組における、区民と行政の活動のイメージ

- 基本方針のもと、区民が行動主体となるもの、また、行政が行動主体となるものに分けて、具体的な行動の指針を示しています。

例 13頁

II 山科区の将来像

まちの姿

山科区は“京都の東の玄関口”であり、水と緑に恵まれた歴史性豊かなまちです。古くから奈良街道や東海道が走る交通の要衝でしたが、一方で、高度成長期までは、田園風景の広がるのどかなまちでした。その後、活発な都市開発と人口の急増の時期を経て、概ね現在の山科区のまちの姿となり、山科駅前地区の再開発や地下鉄東西線、京都高速道路（新十条通）の整備等によって、さらに生活利便性を高めてきています。



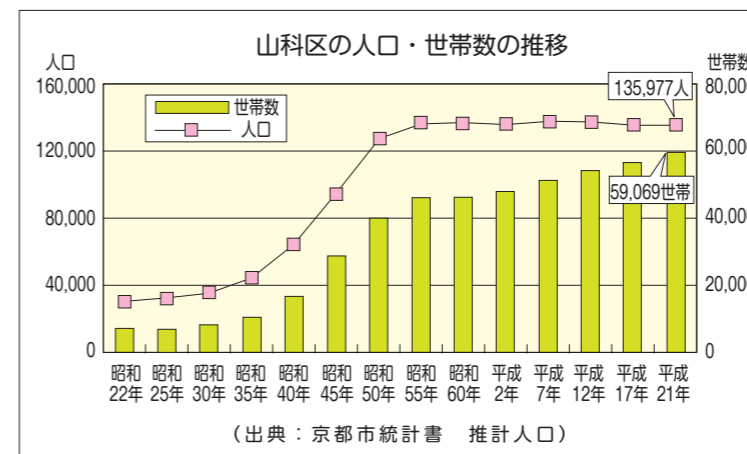
現在の山科区の全景（京都大学の花山天文台から山科盆地を東に見た様子）



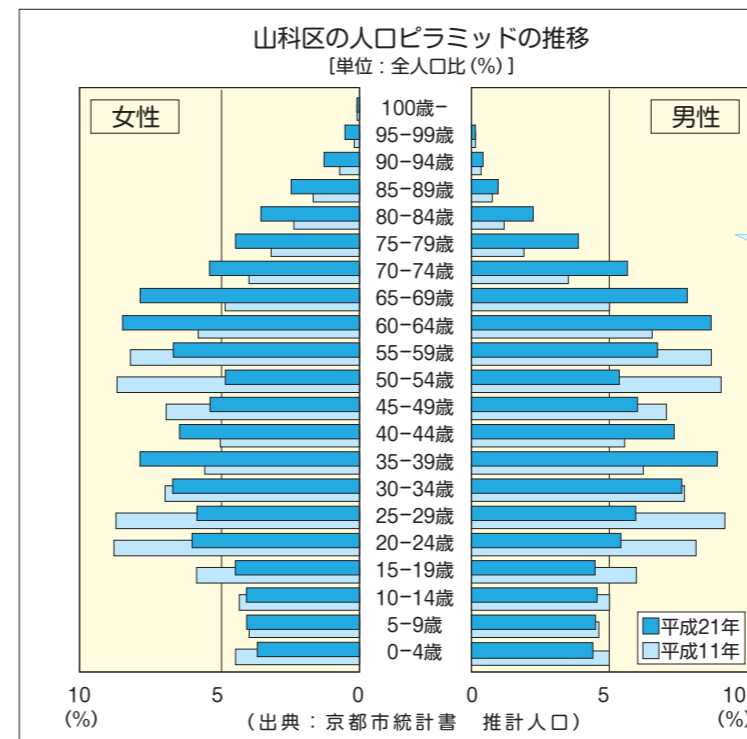
昭和10年頃の山科区の全景（同じ場所から）

区の動向

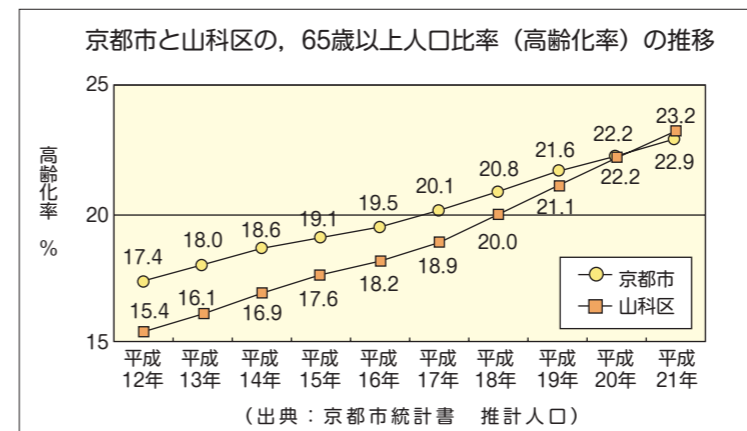
全国的に広がる少子・高齢化や小世帯化は、山科区においても同様です。市内他区と比較して高齢化の進展が急速であることが、山科区のまちづくり各般の課題の素因となっています。



人口は急増期を経て横ばいですが、世帯数は増加しています。



30歳後半と60歳代を中心に、人口の「山」があります。また、20歳代以下の人口比率が小さくなっています。



高齢化が進み、平成21年には、高齢化率が市平均を上回るようになりました。

山科区のまちづくりの課題

私たちは、こうした「まちの姿」や「区の動向」を踏まえながら、とりわけ、超高齢社会に備え、また、若者の流出傾向に対応しつつ、これからの山科区のまちづくりに取り組んでいく必要があります。この計画では、山科区のまちづくりの課題として、以下の5つの項目を重視します。

住民福祉の充実した安心・安全なまちへ

山科区が有する自然環境や良好な生活環境・都市環境、また、歴史・文化等の資源を守り生かして、自ら築くワーク・ライフ・バランス*のもとでの多様なライフスタイル（住み方、暮らし方、生き方）が実現できる、住民福祉の充実した安心・安全なまちとして価値をさらに高めていくことが求められます。

環境を大切にすまちへ

京都議定書誕生の地・京都の市民として、山科区の水と緑に恵まれた豊かな環境を大切にすライフスタイルの実践を通じて、「山科区に暮らしたい」、「山科区を訪れたい」といった思いを集めるまちとなっていくことが望まれます。

山科観光に活力を

都市の魅力を高めること、環境を大切にすること。これらの行動に通じるさまざまなひとと活動を結び付け、山科区の魅力を生かして区全体で総合的・一体的に発信して、山科観光を振興していこうとする動きが強まっています。この動きを、地域の活力へと高めていくことが期待されます。

これらの課題を踏まえて“区民が主役のまちづくり”を進め、私たち区民の間に、山科区民であることの自負と誇りが自然と芽生えてくるようにすることが大切です。そして、私たち区民自らの手によって、だれもが住みたい、住み続けたい、訪れたいと思う、“多世代を惹きつける魅力に満ちた山科区”をつくっていきたいと考えています。

*ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の調和のことです。

山科区の将来像

この「第2期山科区基本計画」は、“区民が主役のまちづくり”の計画です。その、区民がともにめざす「誇りのもてるまち山科区」、「住み続けたいまち山科区」の将来像について、キャッチフレーズとともに、以下のように描きます。

心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科

水・緑が彩る、うるおいのまち

将来の山科区のまちには、区民の手によって、河川や疏水の流れ・杜の緑が守られ、また、まちなかの水と緑が^{はく}つくり育まれて、さらにうるおい豊かでみずみずしい都市空間・生活空間が形成されています。そこには、さまざまな知恵と行動が交わるなかで、快適で、地球環境と調和した暮らしが営まれています。

魅力と元気がいっぱい、かがやきのまち

山科区に数多くある、先人から受け継いだ歴史的・文化的資源が、その価値のもとで互いに結び付けられてさらに生かされています。そして、まちに誇りをもつ区民の力と学生等の若い力が、区内外に「山科の魅力」を発信する底力となって山科区全体が活気付いており、暮らすひとと訪れるひと、みんなが“山科区”に親しみ“山科区”を楽しんでいます。

確かな自治の気風がつくる、あんしんのまち

互いが互いを見守り合い、ともに助け合う自然な心の動きが、優しい眼差しや声かけとなって「ご近所付き合い」から「地域づくり」にまで広く行き渡っており、確かな自治の気風とあいまって、なごやかな雰囲気と、まちと暮らしの安心・安全をつくっています。

※将来像のキャッチフレーズ「心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科」は、公募した結果、奥田貞人氏（山科区在住）の作品が選定されたものです。

III 施策の体系

